（２１） オ ク ラ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 立枯病 *Fusarium oxysporum* f.sp. *vasinfectum*	1.連作を避け、無病地を選ぶ。			
2 苗立枯病 *Rhizoctonia solani* *Pythium ultimum* var. *ultimum* *Pythium* sp.	1.連作を避け、無病地を選ぶ。 2.多湿にならないように換気や排水を良好にする。 3.未分解有機物は施用しない。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●は種時及び子葉展開時 1.リゾレックス水和剤は、リゾクトニア属菌による苗立枯病にのみ登録がある。 ●は種時～発芽初期 1.タチガレン液剤は、ピシウム属菌による苗立枯病にのみ登録がある。 2.タチガレン液剤は、希釈液を乾燥した土壌に灌注すると薬害(生育抑制）を生じるおそれがあるので、播種前に十分な灌水を行う。 3.タチガレン液剤は、播種直後に灌注すると薬害が発生する場合があるので注意が必要である。	播種前	11･4	(混)ユニフォーム粒剤
		播種時及び子葉展開時	14	リゾレックス水和剤
		播種後から２～３葉期まで	M4	オーソサイド水和剤８０
		播種時～発芽初期	32	タチガレン液剤
3 疫病 *Phytophythora nicotianae*	1.圃場の排水を良好にする。 2.マルチ栽培を行う。 3.連作を避ける。 4.発病株は速やかに抜き取り、処分する。 5.土面接触果は発病しやすいので切り取る。 6.センチュウ類の発生は本病の多発をまねくので、植え付け前に防除を行う。	発生初期	11･4	(混)ユニフォーム粒剤
4 黒斑病 （果実黒斑病） *Alternaria alternata*	1.多湿にならないように換気や排水を良好にする。 2.老葉は早めに取り除く。	発病前から	2 3	ロブラール水和剤 トリフミン水和剤
5 葉すす病 *Pseudocercospora abelmoschi*	1.多湿にならないように換気や排水を良好にする。 2.適切な摘葉を行なって草勢の維持に努める。 3.摘葉した葉は放置せず、圃場外に持ち出して処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象に防除を実施しているところでは、黒斑病、褐斑病の発生が少ない。	発生初期	1 1 3 11	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 トリフミン水和剤 ファンタジスタ顆粒水和剤
6 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.収穫残さを処分する。 2.マルチを行う。	発生初期	2 7 11	ロブラール水和剤 アフェットフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤
7 うどんこ病 *Leveillula taurica*	1.下位の老葉や発病葉は速やかに除去する。 2.日照、通風をよくする。 3.草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.モレスタン水和剤はハダニ類にも登録がある。	発生初期	3 7 11 M10	トリフミン水和剤 アフェットフロアブル アミスター２０フロアブル モレスタン水和剤
8 葉枯細菌病 *Pseudomonas cichorii* *P. syringae* *P. viridiflava*	1.多湿にならないように換気や排水を良好にする。	発生初期	24･M1 24･M1	(混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤
9 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	若齢幼虫期	3A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 18 28 28 30 UN	アディオン乳剤 バシレックス水和剤 ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 フローバックＤＦ エコマスターＢＴ サブリナフロアブル コテツフロアブル アタブロン乳剤 マトリックフロアブル プレバソンフロアブル５ フェニックス顆粒水和剤 グレーシア乳剤 プレオフロアブル

オクラ

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
10 オオタバコガ	1.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。	若齢幼虫期	6	アファーム乳剤
			11A	トアローフロアブルＣＴ
			11A	ゼンターリ顆粒水和剤
			11A	デルフィン顆粒水和剤
			11A	エスマルクＤＦ
			11A	フローバックＤＦ
			11A	エコマスターＢＴ
			11A	チューンアップ顆粒水和剤
			11A	サブリナフロアブル
			11A	ジャックポット顆粒水和剤
			13	コテツフロアブル
			15	アタブロン乳剤
			28	プレバソンフロアブル５
			30	グレーシア乳剤
			UN	プレオフロアブル
11 アブラムシ類	1.周辺雑草を防除する。 2.圃場周辺にシルバーテープをはる。 3.シルバーマルチをする。 4.施設栽培では飛び込み軽減のため、開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤーフロアブルは施設栽培のみの登録である。 2.アドマイヤーフロアブルはアザミウマ類にも登録がある。	発生初期	1B	オルトラン水和剤
			1B	オルトラン粒剤
			1B	ジェイエース水溶剤
			3A	アディオン乳剤
			3A	トレボン乳剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			9B	コルト顆粒水和剤
			29	ウララＤＦ
12 コナジラミ類	1.圃場内や周辺雑草を防除する。	発生初期	9B	コルト顆粒水和剤
13 カメムシ類	1.圃場内や周辺雑草を防除する。	発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	トレボン乳剤
14 ネコブセンチュウ	1.水田に転換可能な畑では、２～３年に１回の割合で水田に戻す。 2.苗からの持ち込みを防止するるため、センチュウ類や病害のおそれのない用土で育苗する。	播種前	1B	ネマトリンエース粒剤
15 ネキリムシ類	1.圃場内や周辺雑草を防除する。	播種時～生育初期	3A	ガードベイトＡ